

» 学習評価で改善されるもの

1) 3観点到  
4観点⇒3観点(「生きる力」の捉えなおし)への改善が行われた(図2)。

2) 評価の基本的な考え方の明確化

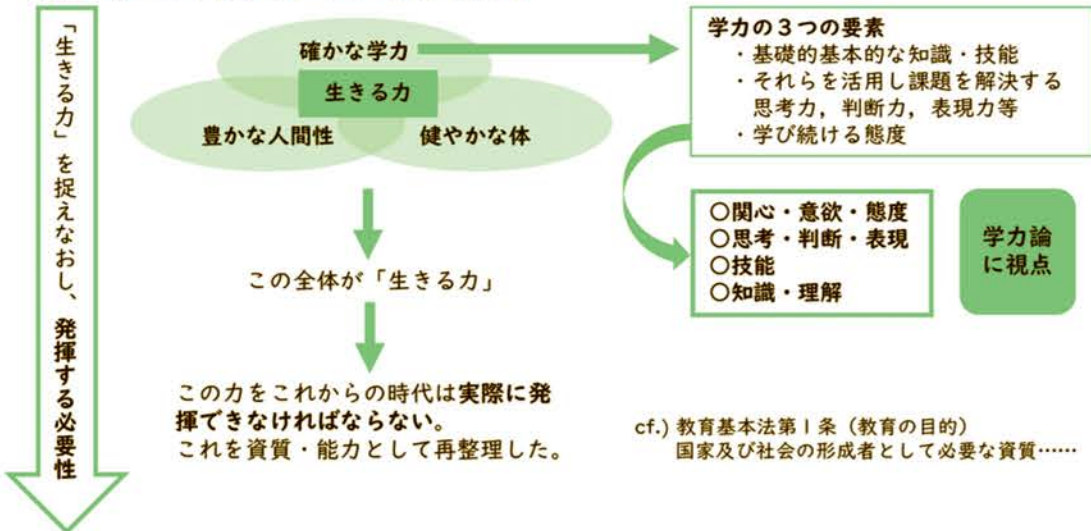
従来は、PDCAサイクルを活用した「指導と評価の一体化」を求めていた(図3)。今回は、「学習評価の基本的な方向性」が明確に示された(図4)。学習評価の在り方は、「報告」や「改善通知」により、次のように示された。

- ①児童生徒の学習改善につながるものとする。
- ②教師の指導改善につながるものとする。
- ③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと。

MEMO -----

図2 従来の評価の観点や方法を修正・改善しなければならない事項

平成10年・20年改訂時【「生きる力」を育成】



平成29年告示【育成すべき「資質・能力」】

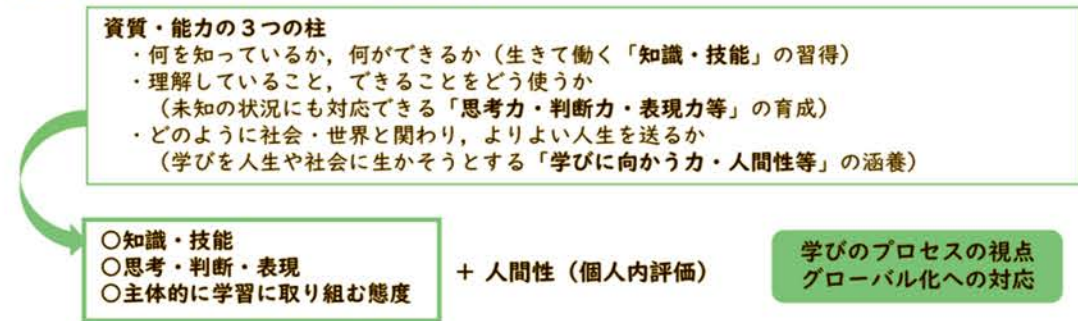


図3 PDCAサイクルと学習評価～評価機能を生かした授業づくり～

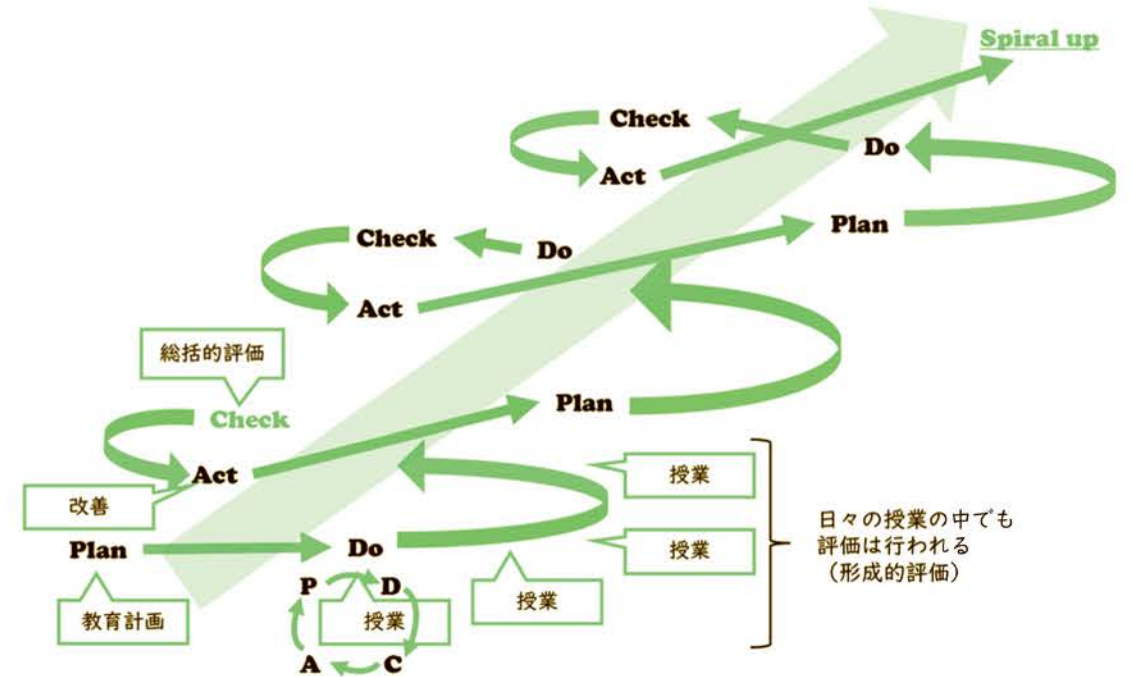
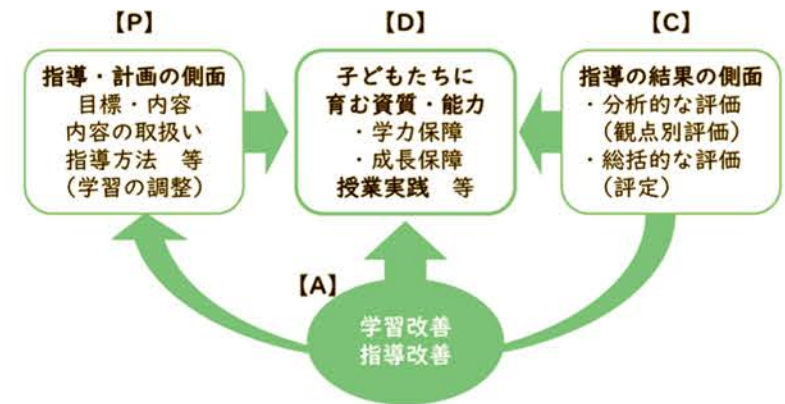


図4 「学習評価の基本的な方向性」を生かした「指導と評価の一体化」



» 学習評価に新たに取り入れられたもの

1) カリキュラム・マネジメントとしての指導と評価

評価の観点や方法を新たに考え、決定していかなければならない事項として、カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価がある。

今回の学習指導要領の改善では、論点整理の段階から「4 学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策」として、「カリキュラム・マネジメントの重要性」を挙げている。その視点は、「子どもたちがどのような力を身に付けていくか」である。

MEMO -----